

■今月の特選句

2025年4月



四月馬鹿^ほ惚れたり^ほ惚けたり^{とほ}惚けたり

青木輝子

相手に惚れ込んで夢中になると、冷静な判断ができずボケてしまう。周りに迷惑をかけて苦情を言われてもトボけて知らん顔。「惚」の三段活用。



しらすぼし千の命を噛む夕餉

敷島鐵嶺

シラスを食べていると巨人になった気分である。しかし、ガシガシと噛みながら、一匹一匹が命だったのだと思うと何だか申し訳ない気持ちになる。



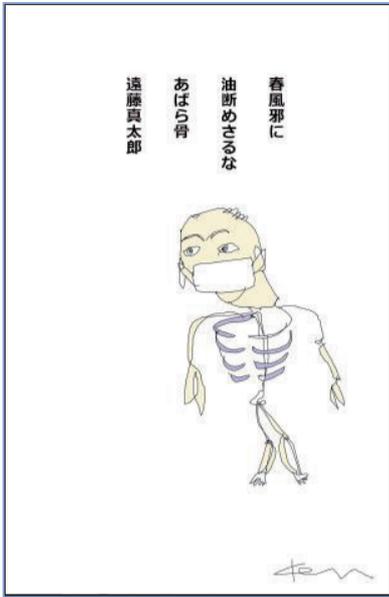
老眼鏡拭いても大根にしっぽあり

鈴木和枝

大根の先っぽに細長い根っこがある。大根そのものが「根」だから、これはしっぽである。ちなみに、サツマイモは「根」だが、ジャガイモは「茎」である。

■今月の特選句

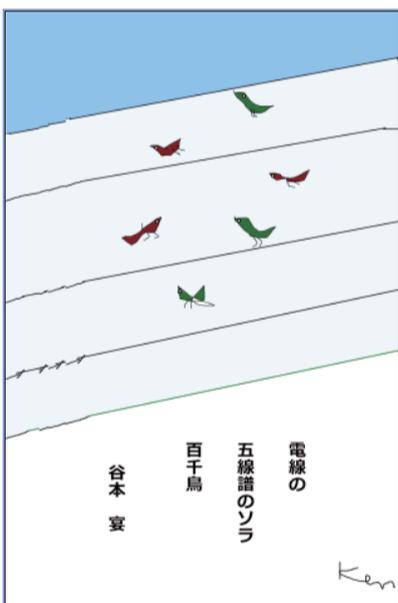
2025年4月



春風邪に油断めさるなあばら骨

遠藤真太郎

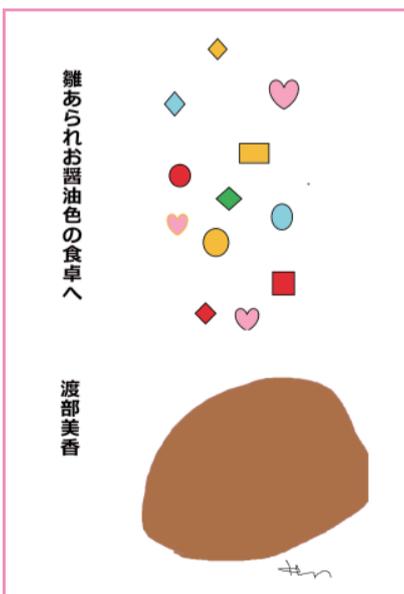
くしゃみや咳で肋骨を骨折したり、ぎっくり腰になる人もいる。こうなると内科に整形外科も受診となる。たかが春の風邪と甘く見ちゃいかん。



電線の五線譜のソラ百千鳥

谷本 宴

電線に並んだ百千鳥を五線譜の音譜と見立てた楽しい作品。「ソラ」はその音階と言うわけだ。楽譜に書き写したら、どんな曲になるだろうか。



雛あられお醤油色の食卓へ

渡部美香

普段の食卓には色彩がない。ところが突然「雛あられ」が持ち込まれた。お醤油色の食卓が一変、カラフルで華やかに。食卓に春の花が咲いたよう。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

会ふたびに「まだか」「そろそろ」初ざくら

・・・花見するより酒を飲みたし

峰崎成規

冴返る電子回路のやうな街

・・・住めば都よ私は部品

尚山和桜

子雀ちゅんちゅんごはんまだちゅんちゅん

・・・さあさお食べよごはんよちゅんちゅん

森岡香代子

待ち人は方向音痴春うらら

・・・音痴同士でうららうららと

加藤潤子

苜蓿(うまごやし)踏んで快速縄電車

・・・そろそろご飯よ帰つておいで

西野周次

スコップに片足乗せれば土匂ふ

・・・土の匂ひに春を感じて

田中やすあき

梅開く古木の盆栽値札付け

・・・高値の札はあへて外さず

桜井美千

落椿着地に上手下手もある

・・・だけど私はなぜか下手下手

吉川正紀子

風船の中に小さな空がある

・・・空の切り売りお一つ百円

八塚一青

初日記昨日は既に空欄に

・・・二三日分をまとめて書かう

月城花風

春寒し昔ばかりを褒める人

・・・生きているのは「今ここ」なのに

ほりもとちか

虚と実の銀座の夜を春の月

・・・この世はすべておぼろなりけり

長井多可志

チューリップー人覗けばみなぞく

・・・行列見ればつられて並び

久松久子

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

樹氷と呼ばれ木々の真珠の首飾り	相原共良
噛み砕く追儼の豆をボリボリと	相原共良
雛は知つてる白酒飲んだ犯人を	相原共良
入学児初登校の靴弾む	青木輝子
初競の高値の鯛の尾が跳ねる	青木輝子
着ぶくれや一円玉が出て来ない	赤瀬川至安
東風吹かばカレントやらをよく食べる	赤瀬川至安
春値上げ命どんどん縮まりぬ	赤瀬川至安
体を燃やす大寒の酒二合	井口夏子
たんぽぽの真綿吹かれて自由人	井口夏子
囀りで危険知らせるのも鳥語	井口夏子
通院は生きてる証し春寒し	池嶋久春
密を避け我が家で花見妻女将	池嶋久春
夏開きどんな魚と孫が問ふ	池嶋久春
春風や颯爽妊婦のボディライン	池田亮二
シャルウイダンス恋の季節は冬も春	池田亮二
筍飯酒より米が高いとは	伊藤浩睦
とりあえずビールといかぬ露の味噌	伊藤浩睦
寒明けてたゞの鴉に戻りけり	伊藤浩睦
女三人寄ればかしまし桜餅	稲葉純子
縦横無尽のアート作品蝮の道	稲葉純子
菜の花の黄色そろそろマンネリ化	稲葉純子
スキーヤー雲を背負いて直滑降	井野ひろみ
駅までの道を夫と山笑ふ	井野ひろみ
推敲の堂々巡り蝮の道	井野ひろみ
菜の花のダイブしたのはお味噌汁	上山美穂
朝のカフェ頭スッキリさせて春	上山美穂
天気予報に注文つけるか春炬燵	上山美穂

バクはもう夢を食べたか昼霞
春風にまたも欠伸のパンダかな
顔上げて僕の未来へ卒業歌
ひっそりと空き家の隅の桜草
冬の夜の目立ちたがりやジュピターは
春きらい十七回忌も空蒼く
杉花粉も自己啓発のきっかけに
青い目の着物はレンタル屋敷
だだこねて揚がらぬ風が地を走る
春北風や物価上昇続行中
梅園や昭和のポスト色あせず
田楽の串の並ぶを横にらみ
このたびは軽症ですと春愁ひ
腕立てとスクワットする浮かれ猫
春泥や頭を垂れて生きるのみ
あれもダメこれもダメなり春の泥
麦踏や韻律を踏む俳句かな
春光が怖い散瞳検査の眼
蜜吸われ哀れなツツジ散らばれり
検診日の夕餉目刺今日も焼く
日替わりよ三寒四温と株相場
どの水仙も背筋真直ぐにキリリ立ち
ぶらんこへメトロノームを聞き飽きて
主事さんが軽々運ぶ春のごみ
祝詞より効果あります福は内鬼は外
福は内鬼は外同じ方向向いたまま
針供養知らぬミシンは突き進む
シェルターもちびロケットも鳥曇
冬眠の蛙重機に起こさるる
すまし顔赤毛氈の内裏雛
春雨や早く芽を出せ綿の種
五人囃子が音をはずませ笛太鼓

卯之町空
卯之町空
卯之町空
梅野光子
梅野光子
梅野光子
遠藤真太郎
遠藤真太郎
大林和代
大林和代
大林和代
岡本やすし
岡本やすし
岡本やすし
沖枇杷夫
沖枇杷夫
沖枇杷夫
加藤潤子
加藤潤子
門屋 定
門屋 定
門屋 定
北熊紀生
北熊紀生
木村 浩
木村 浩
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子
黒田恵美子
黒田恵美子
黒田恵美子

朝五時のうっかり三角コーナーに寒卵
いとエモし巴水の描きし雪の絵は
春光や風にほどける白リボン
掌に乗れば変身の術ぼたん雪
湯けむりの玻璃の向こうに大寒波
予算には収まらぬ雛買はさるる
草餅の賞味期限に追はれ食む
寒卵割ればラッキー黄身ふたつ
日向ぼこ待ち人は来ずあくびかな
栄転と云ふが方位は最悪で
きっちりと三食を食べ受験生
背番号3を賜り春を待つ
口笛は大の苦手や犬ふぐり
ハイチーズ乳歯ニッコリ山笑ふ
年寄りに特典付いてうらけし
収穫を前に全滅春の雪
まだ冬です達磨に両眼入っても
風の向きにふんばる鳥ら冬木立
花は今三分四分のお年頃
久に來し故里小さき花わさび
湯の町を往く下駄の音春霞
商いは金の生る木や植木市
あいさつは先づ御局に新社員
少年の家出願望抜け参り
不覚にも気管支炎に放哉忌
臃影犬かはたまた酔ひどれか
奮ひ立つ街路樹の芽やふくふくと
立春や吾が人生を振り返る
早春の空に鴉の存在感
老いの身に用心せねば春の風邪
古池の蛙は食べてしまひけり
酔ひ回る塀すれすれに猫柳

桑田愛子
桑田愛子
桑田愛子
桜井美千
桜井美千
敷島鐵嶺
敷島鐵嶺
壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次
白井道義
白井道義
白井道義
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴木和枝
鈴木和枝
高須賀溪山
高須賀溪山
高須賀溪山
高田敏男
高田敏男
高田敏男
田代輔八
田代輔八
田代輔八
田中 勇
田中 勇
田中 勇
田中やすあき
田中やすあき

後悔が海に落ちての海星かな
春うららしっぽも生えてくる予感
鋤焼のまばらな肉に伸びる箸
春の待合情報通の多士済々
かくれんぼしても見つかる沈丁花
早春賦歌って籠もる佐保姫は
春めくやスカートめくり声めぐる
命日もぼんやりとして初音聞く
死なんとぞ思はぬ我も花の下
滑稽句詠んで暇無し大試験
ロボットに四角き顔や春寒し
ピポピポと急かす信号春の風
ボルドーの白にしませう蔭の薑
口元が好き梅が好きつて言ふ人の
残雪を蹴飛ばし下る道寂し
春寒の腰に來た來た階段で
鶏合せ口喧嘩なら子結構(コケッコウ)
初花や宴会部長は全盛期
寝言まで似た者夫婦桜桃
真っ先に祖父の泣き出す卒業歌
ニン月やりハビリ受けて九十五歳
リハビリの訪問受くる寒の人
悪態をつきつりハビリ九十五歳
野に光春が駆けだす背伸びする
春うらら御手ふり振りひよこ組
土筆剥く妻は食卓占領し
完璧な垂直氷柱のマーチかな
白梅に負けじと膨らむビアの泡
ほれと呉るる散歩帰りの梅一輪
手で包むホットワインや春の風邪
たらたらと続く言ひ訳春の雨

谷本 宴
谷本 宴
月城花風
月城花風
土屋泰山
土屋泰山
土屋泰山
百目鬼強
百目鬼強
百目鬼強
尚山和桜
尚山和桜
長井多可志
長井多可志
長井知則
長井知則
長井知則
永井流運
永井流運
永井流運
長尾七馬
長尾七馬
長尾七馬
西野周次
西野周次
花岡直樹
花岡直樹
花岡直樹
花畑つくし
花畑つくし
花畑つくし

針穴に逃げられてゐる日永かな
潜くとき夫を捨て去る磯なげき
旅そこは誰かの日常山桜
舞殿を囲むダンスの干大根
女正月遺影に一句聴かせけり
心中の二人にあらむ流し雛
日本を人を信じて燕来る
包み解けば息吹き返す雛人形
花に酔い酒と人にと酔い潰れ
麗かやウツラウツラの五体かな
花時や生きて笑って踊り出す
夜の墓所を拠点としたる猫の恋
春の風邪孫から子からその父へ
声低き彼の告白二月の夜
待合の席分けられて春の風邪
春風に伸ばす両の手指の先
薄氷にそつと小石を載せてみる
日のにほひ恋ふて膨らむ猫柳
憂ひ事ふたつ片付き春隣
大島を少し浮かせて春霞
試歩の嬰の背なそつと押す春の風
トランプはトランクの中春の旅
五人囃子ライブは灯り消してより
逢ひみての後の辛さや雛納め
掛軸は南無阿弥陀仏豆を打つ
耳たぶは春の嵐の泣きどころ
かつらしてゴールド免許どこか春
初筈隠しきれない得意顔
風景や杉の花粉の山動く
春の服色の陽気に落ち着かず
利き腕は左右のいづれ望潮
北窓を開けば冷たい風どつと

東 麗子
東 麗子
東 麗子
久松久子
久松久子
日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子
細川岩男
細川岩男
細川岩男
ほりもとちか
ほりもとちか
松浦百重
松浦百重
松浦百重
三木雅子
三木雅子
三木雅子
南とんぼ
南とんぼ
南とんぼ
峰崎成規
峰崎成規
椋本望生
椋本望生
椋本望生
森岡香代子
森岡香代子
八木 健
八木 健
八木 健

草萌ゆる白馬の王子来なくとも
ネコヤナギ屋ができそうほど猫柳
新社員座席のすべては埋まらざり
一癖も二癖もあり梅一輪
石膏のまだらの土器ののどけしや
音もなく白き空爆今朝の雪
止まり木に着信を待つ待つ寒夜
猫の子の小さく震えるペット店
梅さえも咲き控えさせ春寒や
雲隠れ春の兆しはどこへやら
春来たる気つかぬ人のいないほど
乾燥に負けじと芽をだすチューリップ
完売のマンション見上げ蔭のたう
春コートにコーヒーの香の夫帰る
体重制限なければ乗るのに花筏
白菜の高値を知らず胃袋は
春北風厭はず老婦畑へ出る
翻訳レンズで英文を読む春の昼
穏やかに生きて行きたし山笑ふ
ふるふると花びらの息黄水仙
春寒し首という首亀のごと

八塚一青
八塚一青
柳 紅生
柳 紅生
柳 紅生
柳村光寛
柳村光寛
柳村光寛
山下正純
山下正純
山下正純
横山洋子
横山洋子
横山洋子
吉川正紀子
吉川正紀子
渡部美香
渡部美香
和田のり子
和田のり子
和田のり子